

令和元年度実施状況に関する外部有識者意見について

名古屋市営交通事業経営計画 2023 の令和元年度実施状況について、計画策定時にご意見をいただいた外部有識者に説明するとともに、ご意見をお聴きしました。主なご意見は以下のとおりです。

(安全・安心の推進)

- ホームからの転落事故は、名城線・名港線にホーム柵が設置されればゼロになる。安全・安心は大切であるが、柵の設置には、事業費は多額である。ホーム柵のコストを考える上では、例えば、事故による運行の遅延等によるコストが削減されることなども含めて考えるべきである。

(快適・便利の向上)

- 洋式のトイレは衛生面において気になるので、洋式よりも和式トイレがよいという女性もいる。和式トイレを残してもよいかもしれない。ただ、高齢者には、洋式が必要だ。
- バスにいつも乗っている人はよいが、市外から来る人にとって、バスに乗るのは不安である。なかなか難しいところではあるが、観光地や役所に向かう路線など、普段使わない人が多く乗る路線に、新しい液晶式の表示器が設置された車両を重点的に配置できるとよい。

(まちの活性化への貢献)

- 栄は混雑している。改良する工事は難しいと思うが、混雑を改善する方法をぜひ検討してほしい。

(安定した運営基盤の確立)

- ヨリマチFUSHIMIは評価しているが、効果はきちんと調べたほうがよい。駅ナカではあるが、一店舗を除き改札外に出ないとヨリマチFUSHIMIには行けない。地下鉄と地下鉄の乗継では乗車料金の割引がないこともあり、改札外にあるヨリマチFUSHIMIに寄っていくことを思いとどまっている人もいるかもしれない。高速道路インター近くの道の駅では、インターを出ても追加料金がかからない仕組みがある。

(新型コロナウイルス感染症関連)

- 元年度はある程度順調といった結果になったが、2年度はコロナという状況であるので、計画より悪くなってしまうのは仕方がないことだと思う。やれることに最善を尽くすことが重要である。
- 経営計画について、累積欠損金の削減目標など、目標を絞って、その達成に向けて努力したらどうか。一番大事なのは交通事業が持続可能である状況を維持していくことで、ここにターゲットを絞るべきである。目標を乗車人員においても、いまは難しい。
- 課題は、新型コロナウイルス感染症の拡大以前には戻らない要素を見極めること、それによる乗車人員や収入の減を分析することである。学生の行動はまだつかみやすい。リモートから通常の講義に切り替わる時期をつかめばよい。これに対して、企業のビジネスモデルの変化は、もとには戻らない。減った乗客がどの程度戻るのか、戻らないのか、アンケート調査を実施して見極めるとよい。
- これまでは、利用者には、乗車料金を安くする代わりに混雑を我慢してもらっていた。これからは、高い乗車料金を支払っても混雑を避けられるほうがよい、という考え方が広がるかもしれない。

(参考) 外部有識者一覧 (敬称略、令和2年8月現在)

氏名	役職等
青木 真美	同志社大学 商学部 商学科 教授
加藤 博和	名古屋大学大学院 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター 教授
加藤 義人	国立大学法人 岐阜大学 工学部 客員教授
神谷 紀子	フィールド・ネクサスGROUP CEO税理士 名古屋大学法科大学院 非常勤講師
二村 真理子	東京女子大学 現代教養学部 国際社会学科 経済学専攻 教授